

# 外国語科における指導と評価の一体化について

山口市立二島小学校 教諭 藤元 涼太

## 1. はじめに

外国語科では、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を育成することを目標としている。

そこで、本校では、相手に自分の思いを伝えるためのコミュニケーションを大切にして取り組んできた。

## 2. 実践事例

### (1) 単元名 5年 Unit6 「What would you like?」

ていねいに注文したり、値段をたずねたりしよう。

### (2) 単元目標

自分のことを伝えたり、相手のことをよく知るために、ていねいな表現を使って、注文したり会計したりすることなどについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったりすることができる。

### (3) 教材について

本単元は、Unit 3で学習した、「What do you want?」のていねいな表現の仕方を中心に学習し、ていねいに注文したり、値段を尋ねたり答えたりできるようにすることを目標としている。ここでは、主にお店での注文の場面を想定し、店員役は、ていねいに注文を尋ねる表現や値段を答える表現、お客さん役は、ていねいに自分が頼みたい物を注文したり、値段を聞いたりする表現を身につけることがねらいとされている。

### (4) 児童の実態

外国語活動を通して英語の基本的な表現には触れてきており、外国語を学ぶことへの抵抗感はないが、英語の音への慣れ親しみが少なく、アルファベットの音の聞き取りや発音に苦手意識があるとともに、コミュニケーション活動などでは、意識しきれずカタカナ英語になることが多かった。

そこで、5年生での外国語の授業では、Sounds and Lettersの活動やALTによる英語の発音を聞く活動を通して、英語の音への慣れ親しみを充実させるような指導を続けた。例えば、rとlの発音の違いやd、tなどの音に親しませた。

コミュニケーション活動には、多くの児童が積極的に取り組む姿勢が見られた。初めて学習した表現を自分で判断して使えるようになるまでには時間がかかるが、何度も練習したことのある表現は積極的に使うことができていた。コミュニケーション活動に入るまでの慣れ親しみの学習の重要性が感じられる一場面だった。

(5) 単元指導計画及び評価項目

	めあて	評価		
		知	思	主
1	ていねいな注文や、値段のたずね方を知ろう。	○		○
2	自分が食べたいものをていねいに注文しよう。	○		○
3	ていねいな英語で食べたいものをたずねたり、注文したりしよう。	◎	○	
4	値段をたずねたり、答えたりしよう。	◎	○	
5	ふるさとの料理でメニューを作ろう！		◎	
6	ふるさとメニューを注文しよう！		◎	○
7	Unit6 で学習したキーセンテンスの語順を考えよう。	◎		

○記録を残さない評価（形成的評価） ◎記録を評価

※毎授業終わりに振り返りを行った

(6) 授業の実際

①主眼 ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることができる。

②流れ

**1 時間目**にキーセンテンスへの出会いとして、ALT と T1 の Small Talk を行った。初めて触れるキーセンテンス「What would you like?」がわからなくても既習事項や生活の中で使っている英語から想像し聞く力を養う。また、場面設定を明確にし、より想像しやすいようにした。「What would you like?」が「What do you want?」の丁寧な表現であることに気付かせることでもより身近に感じさせた。



カタカナ英語からの脱却としては、前述したように、Sounds and Letters の活動を毎授業の最初に帯活動として取り入れた。また、同時にアルファベットの名前だけでなく「音」を中心に学習させた。

**2 時間目**は「I'd like～」の表現を学習した。自分が注文したい食べ物を丁寧な英語で答える表現に慣れ親しむために、WordLink の単語とつなげて楽しく覚えるゲームを行った。単語を覚える際には、キーワードゲームを行うことでも楽しくいつの間にか英語を覚えている活動を目指した。この活動は単元を通して行った。

**3 時間目**は「What would you like?」の表現を学習した。前時に学習した「I'd like～」とあわせて、「丁寧な表現でたずねたり、注文したりしよう」というめあてを設定し、Picture Dictionary の p 8・9 を利用して店員役とお客さん役に



分かれてやり取りの練習を行った。その際 SKYMENU の発表ノートを利用して作成したメニュー表を使ってタブレット上でメニューを動かしながら注文する、実際のお店のような場面設定をつくった。

単元の6時間目で行う、話す(やりとり)の授業に向けて、【思・判・表】のA評価として「相手の質問や答えに即興で反応できる」ことを基準としているため、相手の答えに対して反応するときの相槌も同時に学習した。例) I'd like a salad. という答えに対して、That's nice!や It's healthy. など。日常生活で会話をするとき相手の答えに対して、無反応な場面は考えられないことからこの評価基準は重要であると考えた。

4時間目は「How much is it?」の学習をした。ここでは、質問よりも値段を英語で答えることを重視して練習を行った。2時間目から「食べ物」の単語と並行して数字の学習も行っていった。ただ、店員役になって代金の計算をして出した答えを英語で答えるプロセスはここで初めて行うため児童は少し混乱しているようにも見えたが、練習を重ねるうちにスムーズに答えられるようになっていった。

5時間目は「ふるさとの料理でメニューを作ろう」というめあてで、6時間目に行く活動の準備を行った。SKYMENU の発表ノートを使ってメニュー表を作成した。

6時間目の活動がより身近に感じるような場面設定にするためにふるさとの食材を使った料理をふくめて、メイン・サイド・ドリンク・デザートをそれぞれ2つずつ考えた。



タブレットを使って作成したことのメリットとして、子どもの意欲が向上したこと、何度でもやり直しがきくこと、画像や絵の印刷の必要がなく教師が準備をする手間が省けるということがあげられる。デメリットとしては、タブレットの操作スキルをあらかじめ身につけさせておく必要があること、また、機械トラブルが起こることがあることがあげられる。

6時間目はこれまで学習してきたことを披露する場として、それぞれが店員役、お客さん役になりお買い物の活動を行った。

1000円以内でメイン・サイドをそれぞれ1つずつ、デザート・ドリンクから1つ、合計3つを注文するという設定にした。まずは教師がロールプレイングを行って活動の確認を行った。ここでも電子黒板でメニュー表を開き操作しながら注文を聞いた。評価基準となる相手の答えに即興で反応する表現もここで確認した。



その後児童同士の活動に移った。最初は、児童が店員役とお客さん役に分かれて実際のお店での場面を想定して活動を行った。場面設定として、児童はエプロンと

帽子を身に着けるようにした。また、カウンター（机）には、そのお店のおすすめメニューが書かれた看板を貼った。店員役の児童はタブレットをもって接客を行い、お客さんもしくは店員さんがタブレットを操作しながら会話を行った。

メニュー表をタブレットにしたことで自然と視線が上に行きアイコンタクトをしながら会話をするのができたため、より自然なコミュニケーションにつながった。



おすすめメニュー  
をかいた看板

本学級は11人と人数が少ないため、普段かかわっていない人とのコミュニケーション能力も評価の一つとして大切だと考えたため、参観者にも参加してもらった。児童が店員役、参観者がお客さん役として活動を行った。参観者の「What's this?」や「What's taste?」などの想定外の質問にも動じることなく既習事項を活用して即興的に答えていた。（参観者には、あらかじめ質問をしてもらうように頼んでいた。）



この授業では、評価基準を提案事項として参観者にも児童の評価をしてもらい評価基準が適切かどうか判断してもらった。以下がその内容

A・・・ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることができ、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。（ジェスチャーや表情も含む）

B・・・ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることができる。  
（What would you like?/I'd like~/ How much is it?/ ~is ○○ yen. を言うことはできるが、それ以外の即興的な反応があまり見られない。）

C・・・ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることができない。  
（キーセンテンスを言うことができない。）

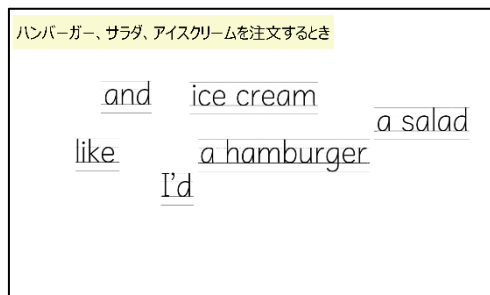
※ 即興的な反応

これまで学習した表現や単語、知っている表現を使って質問に答えたり、反応したりすること。

反省会では、本時での評価としては大方適当だろうという反応が多かった。ただ、学習指導要領と照らし合わせて、児童の英語の能力をどこまで求めるかによって、「即興的な反応」をA評価に入れるのは児童の実態によっては難しいのでは、とい

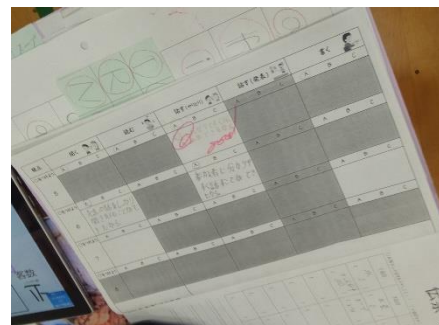
う意見もあった。

7時間目は単元の総復習として、キーセンテンスの語順の並べ替えを行った。キーセンテンスを単語に分けたカードを発表ノート上に準備しておき、日本語の質問を参考に単語を並び替え正しい語順にする。その際、英単語にあった日本語を英単語の下に配置させることで、日本語と英語の語順の違いに気づかせた。この内容は6年生の文構造にあたり、5年生の内容ではないが、6年での学習をスムーズに行えるように5年生でも行った。



#### (7) 指導と評価の一体化

振り返りカードには、その単元でねらう5領域それぞれのめあてを記しており、それに沿って児童は振り返りをした。ここでは、教師が意図的に「記録に残す評価」「指導はするが記録に残さない評価」を振り分けた。



また、パフォーマンス評価については、これまでの児童の実態を踏まえながら、その時間において期待する言語表現を評価規準ごとの具体例として挙げ、授業中にそれに沿った見取りができるように工夫した。その授業における評価規準は、これまでの学びを次の学びにつなげるための「期待する学び」である。

例えば、本授業では、店員役の児童から「What would you like?」と尋ねられた際に、お客さん役の児童が「I'd like A, B and C」と答えるのがB評価とすると、その児童が「What's this?」と付け加えている姿をA評価とする、など、「児童がこれまでに学習した単語や表現を使って即興的に会話を広げている姿」を評価することである。この際に指導者が注意すべきことは、児童の言語表現について評価するのか、ジェスチャーや表情などの身体表現を+αとして評価するのを単元の狙いに即して見極めることだと考える。

#### (8) 実践を終えて

まず、この授業をするにあたり私自身の挑戦として掲げていたのは、英語が苦手な教員がどのようにして外国語の授業と評価をするかである。その手立てとして、今回は電子黒板やタブレットを使用した。また、児童は、外国語に対して苦手意識を持っているわけではなく、むしろALTと積極的に関わろうとする意欲が多くみられていた。その意欲をより向上させるためには、教師がALTと多くかかわっている姿を子どもに見せることだと考え、私自身が学年当初からALTと積極的に関わった。その結果、授業では、他校のALTとも積極的に英語で関わったり、参観者にも英語で話したりする姿が多く見られた。児童の振り返りの中にも「たくさんの先生と英語で話すことができた」と書かれていた。

ICTを活用した外国語の授業として、ICTの利点「共有・保存」をいかし、場面設

定に多く活用した。児童は、タブレットを操作することに対してとても意欲的で、メニュー表を作るときには時間も忘れて夢中になっていた。教師側の準備としても、用紙や写真の印刷をする必要がないため業務改善につながった。特に、メニュー表に必要な料理の参考資料や写真、絵などは、その都度タブレットで調べながらメニュー表に貼り付けることができるため時間の短縮につながった。ただし、発表ノートの操作方法や写真の保存の仕方などのスキルをあらかじめ身に付けておく必要がある。

6時間目の研究授業では、評価規準を明確にして行ったが、単元のねらいに即した評価規準をあらかじめ設定し、それに向けた指導を単元を通して行うことが指導と評価の一体化においてとても重要だと感じた。具体的には、A 評価の規準としていた「即興的な反応」を単元を通して学習したことで参観者からの予期せぬ質問にも何とか英語で答えようとする姿が多くみられた。

今後の課題として、今回 A 評価規準として挙げた「即興的な反応」を今後の授業の中で自然と使えるようにする活動を取り入れていくことが大切だと考える。なぜなら、Unit のキーセンテンスを覚え言えるようになることは知識・技能の段階であり、それらを使いながら + $\alpha$  「即興的な反応」をすることが思・判・表の評価になると考えるからだ。

楽しく積極的に英語でコミュニケーションできる児童の姿を目指して授業づくりを行っていきたい。

### 3. 参考資料（本時案）

本時案 11月13日（金曜日） 5校時 於：体育館

①主眼：ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることができる

②学習の流れ

学習内容	主な言語活動・児童の反応	○教師の支援 ◆評価
1. Greeting ・ALTとのあいさつ  ・参観者とのあいさつ（1対1）  2. Sing  ・”What would you like?”  3 Sounds and Letters ・Alphabet の音	A:How are you? B:I' m <sup>^</sup> . A:Why? B:Because …  I' m <sup>^</sup> . Nice to meet you. 歌いながら、学習した表現を想起する。  特に終わりのkやtの音の特徴に気を付けて発音する。  既習の単語を想起する。	○CRT とALT とのやりとりを通して活動の見通しをもたせる。  ○英語を使う環境づくりのため、児童と参観者とのコミュニケーションの場を設定する。 ○ていねいな表現を想起させる。 ○数を復唱しながら100までの数の言い方を確認する。 ○ALT の発音を聞かせ、子音で終わる音に気を付けて発音するよう促す。 ○これまでに慣れ親しんだ単語の発音に注意しながら正しい音で発音するよう促す。
4. Word Link ・単語（食べ物・数字）  5. Small Talk ・お店屋さんでの会話  6. Let' s Try ・ふるさとメニューを注文し合う。 ・タブレットで作成したメニュー表を活用した注文 ・お店役とお客役に分かれての注文・支払いと会計 ・参観者への関わり  ※お店役として何人に販売したかを競う。  7. ふり返り 本時の活動をふり返りシートに記入する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">ふるさとメニューを注文したり、会計したりしよう。</div> ていねいな表現で注文や受け答えをする活動のイメージを深める。 A: Hello. B: Hello and welcome. What would you like? A: I' d like A, B and C. B: OK. A, B and C. Anything else? A: No. thank you. How much is it? B: A is 300 yen.B is 450yen.C is 240yen. 990yen, please. A: OK. Here you are. B: Thank you. Here you are. A: Thank you. B: Have a nice day. A: You too.	○CRT とALT が、児童の活動のモデルとしての会話をする。ここでは注文と会計場面のやりとりをし、既習事項を想起させる。 ○所持金を1000円とし、その中で食事を注文できるようにする。ゲーム的要素を取り入れることで児童が意欲的に取り組めるようにする。 ○相手の言葉に反応できるよう促す。 ◆ていねいな表現を使って注文したり、会計したりすることなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。  （思：机間指導、ふり返り）